驛遞局認可

明治十九年十月廿五日發行

每月三回發兌
一冊正價五錢
一ヶ月十五錢

女學雜誌

第三十九號

東京　女學雜誌社

WASON
HQ
1104
J74+

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 39. October 25th, 1886.

第參拾九號

EDITORIAL: Woman and Christianity (concluded).

LEADING ARTICLE: Our sisters in Japan (concluded), by Mrs. M. C. Leavitt.

MISCELANIES: Old Man's talk: IV.; Home Department.

CRITICAL NOTICE: Prof. Toyama's "Shyakwai Kai-ryō to Yasokyō to no Kwan-kei," ("Social Reform and Christianity"); Mr. Tsubouchi's "Madam Rowland."

BIOGRAPHIES: Camma; A woman: II; Anyō; A widow.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISMENTS.

●社說 女子と耶蘇敎(其三)

●論說 日本の姉妹よ告ぐ(其三)レビット夫人

●叢話 をきな演說(第四席)○いへのとも

●批評 外山正一君の社會改良と耶蘇敎との關係○坪内雄三君の朗蘭夫人傳

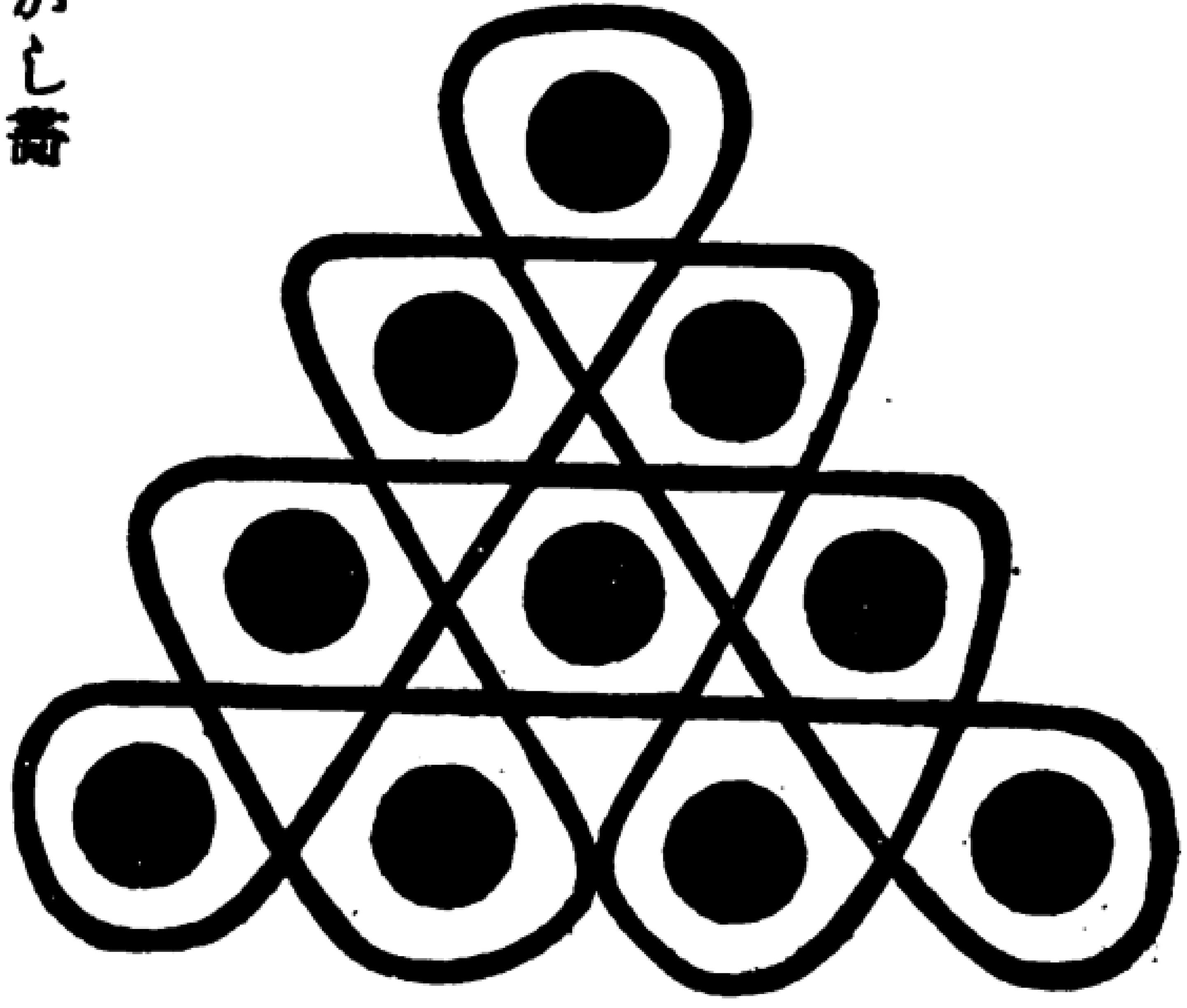
●佳傳 カムマ夫の讐を報ひし事○松嶋佳人傳(第二回)○安養の尼○夫を失ひし人の歌

●寄書 世渡りの歌(若松しづ)其外詩歌○婦人の服裝(和崎義路)○虚言をウソと云ふ事(齋藤新助)

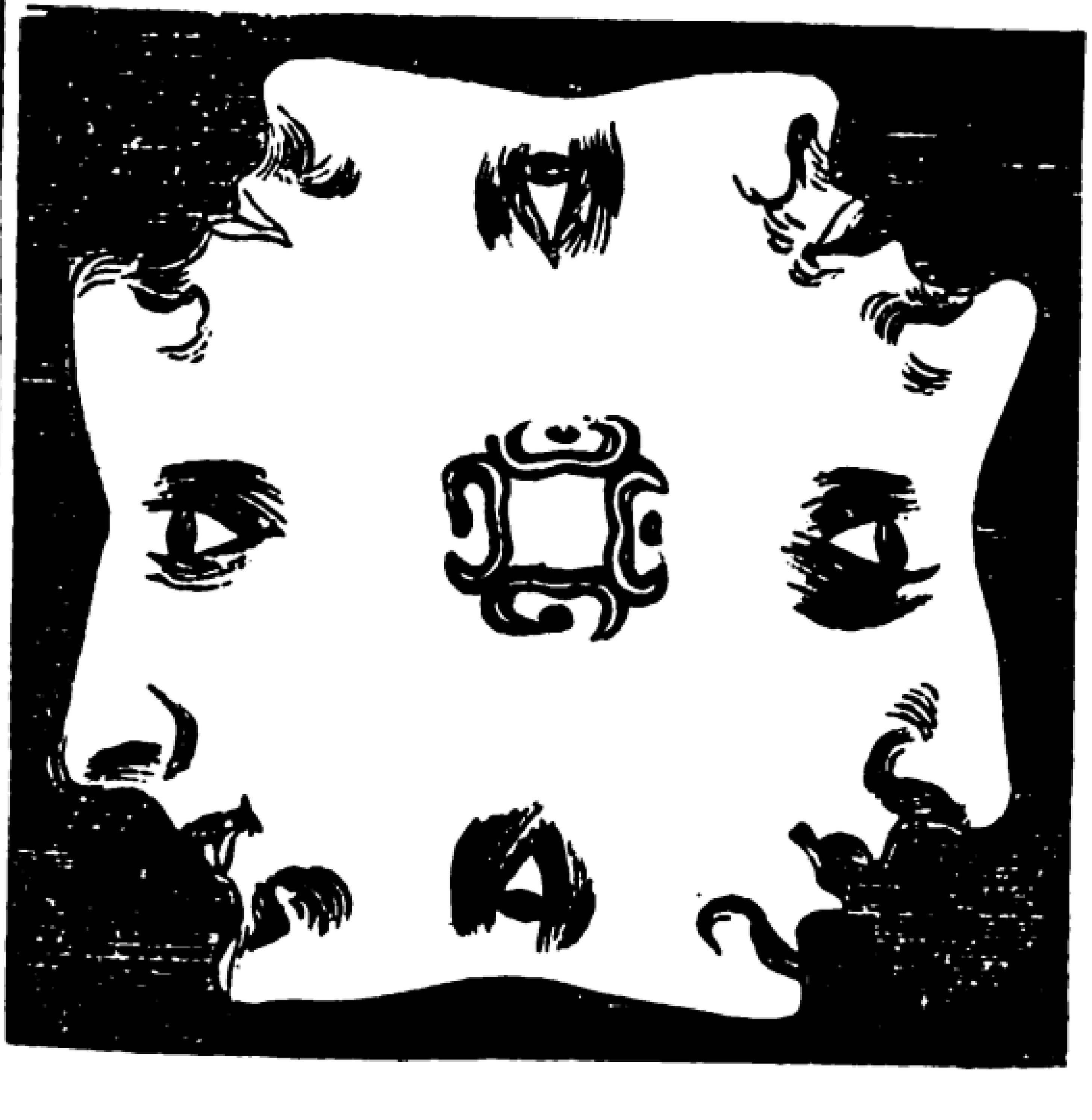
●新報 十則

●廣告

●考へもの こゝに圖の如く先つ●を幾段にても此の割合に畫きてその外側を繞りたる線を一筆に引く法如何



●ばかし畫 顔がいくつありますか



女學雜誌　第參拾九號
明治十九年十月廿五日

●社說

○女子と耶蘇敎（其三）

子供は氣質の未だ定らざるものにして喩ふるよ猶ほ白糸のいろ〳〵に染め得べきが如し之を善くするも惡くするも一にその敎育にありと云ふべし特に子供の性よく人の眞似を爲す人顏をしかむれば則ち自ら之を試み人笑を含めば其身も亦た之に倣ふ一擧一動大抵みな人の爲す所を見て之を學び覺ゆるにあり然るに子供が常に見る所の人は父母にしてことに母の傍にあるを多しとするが故にその倣ひ習ふ所の行は大抵みな之を母の行ふ所に眞似たるものなり今それ氣質未だ定らざるものゝ如此く母の行爲に倣ふを見れば赤子百年の心を多く母の氣質に受るは當然の理なりかの賢母に賢兒ありて頑母に亂暴の子女多きものは一に此が爲めなり

之を以て其子を正人君子と爲さんと欲せば母先づ正人君子の行なくんば不可なり其子を學者英雄となさんと欲せば母また先づ學者英雄の心得なくんば不可なり其身卑劣の心に制されて其子の正からんを望み自分下賤の行を行ふて其子の高からんを望むは之を鳶が鷹を得んを欲するに比ふ木に緣りて魚を求むるとの古事は大抵斯の如き非望を笑ふものなり吾人當今の母が其子を敎育するを見るに此感甚だ切なり其子の惡戯を爲すや當時母の心氣もし快からばたゞ笑ふて之をれ尤めず子たるもの何如で其惡戯の惡しきを知らんや然るに他日同樣の遊を試るとき當時母の心氣もし不快ならんか疾言罵詈至らざるなし子より之を見ば果して如何に覺えん先に惡からざりしもの今は行ふ可らず之を行ひ得ると得ざるとは只だ母の氣分何如に關はるを知りて遂に其事の善惡を悟るあたはず啻に之を悟る能はざるにあらず或は母の氣儘を感じて其言を輕んじ或は其愛少きを怨みて之に遠かるの損あるべしかの母が子供の善事を爲したるを賞せず惡事を爲したるを責めざるが如き或は善事をすゝむるに一身の出世を說きて暗々よその自利貪慾の念を養はせ惡事を懲らすに幽靈の現出巡査のお尤め等を用ひて知らず識らず其子を臆病にし其子を人前をのみ飾る者とするが如き或は苦がき藥を甘しとして母まづ之をあざむき茲までを出てよ其子をつり出して冥々裏に方便詐僞の手術を敎ゆるが如き皆な善惡正邪を判別せしむるの敎育にあらざる也母たるもの斯の如き敎育を行つて其子の暴亂氣儘なるを見

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遂にその君子善人とならざるを歎ずるは其愚家鴨の卵を孵へして雛の水入に驚く牝鷄の如しそも／＼皆な之に其の元因あるを知らざるもの也此故に母たらん者は常に正邪善惡の判別を明白にして子供の賞罰を嚴重にしその善を行ふ時ハ心限り之を褒め惡を行ふ時は斷乎として之を呵責し終始正義の念を養ハせて邪曲の風を學バせざれバ其子の君子善人とならざるを欲するも得ざるなり此故に子女の正からんとその高からんと等を望むものハ母に先づ此等の心得なくんバ不可なりと云ふ也此に至れバ母たるもの丶先づ耶蘇教を信じて其心を正くし其行を潔くするは甚だ大切の事なるを知るなり

且や子供の教育は愛育を以て最も可なるものとす母たるもの全心ろの子を愛しまた自由に其愛をあらハし母子の情交尤も親密となり子の樂みは母の快よきを見るにあり子の悲みハ母の不平を見るに過たる者なきに至り家庭の教育初て行ハるべきなり然るに子を愛するの愛は耶蘇教を信じたるの母に於て初て尤も深きを得べし善を喜び惡をにくむの心は亦た耶蘇教を信じたるの母にして初て完きを得べし故に此の如き母の子たるものハ其母を愛すると亦尤もふかくして母の快不快を感ずるとも亦た尤も切なりと云ふべし之を以て母が其子の善行を喜ぶの心ます／＼深くして子が之を見て喜ぶの感またます／＼切に母が其子の惡行を惡むの心いよ／＼強くして子が之を見て悲しむの憂またいよ／＼強し茲に至らバ母を輕んずるの念子の心に毫もあるなくして其身をつゝしみ善行にはげむの覺悟追々に加はるべし此故に吾人は愛育の家庭教育に最も宜しきを信ずると共に愛育は信徒の母にして初て完全に行はるゝとを得べしと信ずるもの也此點より考ふるも母たる者の先づ耶蘇教を信ずるは甚だ大切の事たるを知るなり

特に耶蘇教の人心に勢力あるは其の善をすゝめ惡を責め憂を去り樂を得さするの一事なり大凡そ人を以て勸善懲惡の基とする時は此基や甚だ動き易く其力の及ぶ所また甚だ狹し例へば其人の見ざる所あり其の人の我心を親ひ得ざるとあり或は心正くして行の偶然にあやまりたるを罰せられて大に不平あるとあり到底賞罰を正當に且つ完全になすと能はざるものあり然るに若し茲に在まさゞる所なく見玉はざるなき神ありて明暗の地と隱顯の行とを問はず常に我が心を知り玉ふと信ぜバ其人の善をなし惡を爲さゞるは實に心より出るなり毫も飾り欺く所を得ざるべし又彼母が子供の善惡を或は喜び或は悲みて其快不快の樣姿に子供が善にすゝみ惡を去るの心を強か

らしむるは可也然も若し其賞罰を啻に母の褒貶にのみ歸するときは其力の或はうすき所あるが上に反てこれ母子の愛情を損するの患生ずるの日あるべし之を若し子供の善事は神が尤も喜び玉ふ所其惡行は神が尤も惡み玉ふ所なりと敎へて母は神の賞罰の其子に科さるを或は喜び或は悲しむと云ふに至らば母の同情は其子にいよ〳〵深く感ぜられて子の賞罰を念ずるの心は更に甚た強かるべし西洋の子供が夜寢るの前母に終日の行を戒しめられて密かに神の前に跪き自ら其罪を神よ悔ひて御釋を請ひ奉り母にもまた其祈禱を願ひて謝罪の祈を共にするが如き最上の美事にしてまた最美の敎育法と云ふべし此に至て母子の愛いよ〳〵深うなり子供の心得ます〳〵定て遂には惡行をきゝて身振ひし善行を見て快喜するの心子供の氣質となるなり此點より考ふるも母たる者の先づ耶穌敎を信じて其子を如此く敎るは甚だ大切の事たるを知るなり

母にして既に如此ならんか其子の正人君子たる固より難きにあらず況んや之を學者にし英雄にし才子にし藝人にするの敎導をや決して難事にあらざる也見るべしセントアウガステンセントクリソストム。セントベーシル。セントグレゴリー。ナジアンゼン。セチドーレット。コンスタンチン。バレンチニアン第三世の如き皆な其の母の信者たり熱信たるによりて亂暴制しがたきの子遂にみな大聖の人となれるなり吾人故に云く女子先づ耶穌敎を信じてのち子供の敎育完きを得べしと

吾人は以上の三篇に於て女子と耶穌敎との關係を說述せり大意此敎ありて後ち女權はじめて伸張したる事及び此敎を信じて女の心得始て定り男女の交際始て淸潔となり夫婦の間始て愛ふかうなり一家の親睦始てあつく子供の敎育始て完きを得ると云ふ也此等は耶穌敎が女子に於ける手近の事々につきてたゞ其の大畧を擧げたるのみ若しその遠大なる關係について之を論ぜば此餘に尙ほ數多の利益あるを知るべし如此きは吾人が時を待つて更に細論せんことを望むものなり　顧れば耶蘇敎を邪敎として其流行を蛇蝎の公行するがごとくに嫌惡したるは既に昔日の一夢となり今や人心大抵この敎の美なるを感じ殊に非常の反對を試みたる學海の人々にして今は反つて之を主張するもの少しとせず之れ吾人の尤も慶賀する所にして本社の素望のやゝ達せんとするは特に深く感謝すべきと也希くは女子を愛育する父母諸君よく此敎の可否を研窮して定る所あるべし然らずんばこれ其愛娘をして日未だ登らず月尙ほかくるゝの時獨り暗路を行かしむる者と云ふべき也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●叢話

○おきな演説（第四席）

段〻面白ひ御話がありまして私の次には先生が殿の御演説もあるとゆえたゞ手短かに述ませうが、先の御話の通り女と云ふものは兎角つまらんと斗りして居るやうに人も思ふし又自分にも思はるゝものですが實は甚だ間違つた事デかの留守番の蕭何が漢の宰相となつたと云ふコレハ極當はまつて余程よい例であります。所が女ハかの蕭何のやうに家にバかり留守番をして一家の切盛をすると云ふ大切の役目の外にモー一ッ餘程大事な仕事がありますテ。ソレハ男子を慰め勵ますと云ふ事で昔しから女の得意などと致してありますが前々にも申されました通り世の中と云ふ者は隨分氣に食はんとが澤山ある所ですから此の戰場へ打て出づる夫や兄弟は日々心を落したり望を失つたり腹を立てたり怒つたりするとが中々少ないものです又ろうでなくても朝から晩方まで仕事をして家に歸りまする其ハ終日の勉强で躰が疲れ切つて居りますから何か之を慰めてくれる者がありませんでハ明日又々活潑になつて再び世間へ飛び出すと云ふ勇氣ハ餘程少ないものです貴方がたハソンナとを御存知ハあるまいが男子が夕方仕事を仕舞つて家に歸る時ハたゞ家内の人々の心得次第で實に愉快にもなり又ます〳〵不愉快にもなるものです先づ家に歸ると夫ならバ細君が迎ひに出る子供もお父さんがと云つて喜んで駈て出る其處等を見るとよく片付て吾が歸りを待つて居たと云ふ樣子着物をぬいで湯に入り上つてやうやく躰をやすめる今日ハ何かお變りハありませんでしたか。イヤ何もなかつたが、家でハ何如であつた。お父さん今日坊は學校でチ御褒美を貰ひました。おなた坊は今日まことに温和くて。などト云ふ一二の會話があれバ先づ一日の苦勞は早や何處へか行て仕舞ます夫から皆〻一處に夕飯を食べませ、夕飯が了るとテーブルの上でまた何か面白い話などを致ます、折から日は全く暮て月が庭の梢にかゝる。細君琴を取出して彈じますか子供が學校で習つた唱歌を歌ふ上等の家ならバヲルガン、ピアノ、などを鳴らして家内中樂しみまする。此の樣にもし家内が面白くて細君の慰めが行屆まするか又た夫や兄弟が失望落膽して歸つた時或ハ歌を詠じたり又前のやうに樂を奏したりなどして之を慰めますれバ翌日ハ早や氣も取直りて愉快に外出するとゝなりますコレハ全く女の力で其の効能ハ中々莫大なるものであります。貴方がたの樂隊と云ふものを御存知でせうアレを平日

見ますとまことにつまらん遊びものゝ樣ですがコレニ大變な功能がありますヲ先づ戰場に敵身方向ひ合ひとなりまして日々血なまぐさき慘酷の戰ひ斗りありませう骸骨ハ山血ハ川と古も云ふたごとくまことに地獄にもあるまいと云ふヒドイ有樣のことです此時兵卒は終日の苦戰に心も躰もつかれ果てゝ陣所に歸る原野慘憺として月色白く玆にまた數行の厂が飛び過ると云ふ古人が詩によみそうな景色となると古郷の事が思はれたり友人の戰死が歎かれたりしまして勇氣も上が上に挫けることです然るに此際樂隊が勇壯の樂を奏して大和男兒、やまと男兒とか御國の爲とか歌ハれましたらドンナ者でも銃劒をつとり踊りたくありまするヲ。女が男子をハげまし慰むるハ丁度玆の事です樂隊が戰爭や兵卒になくてならん通り女ハ實に大切なものですかのナポレヲンボナパートと云て古今の英雄と申さるゝものも其皇后の慰めによつて始終氣をとり直したと書いてありますヌ宗敎の改革を爲ましたかのルーテルと云ふ大義人も一時其心を落してよハり果てたときに其妻君の勵ましにより再び氣を取直してあのやうな大事業を成し遂げました支那の聖人の文王も日本の名將賴朝も大抵みな其婦人より此やうなる助を得たることです。故に女は決してツマランことを致して居るものではありません實に世の中にも男子の爲めにも非常の効能があるものですから貴方がたも決して自からツマラン事を爲すものだなどと自分で思ふてハなりません前の方が申された通りに一家の切盛をよく〳〵注意して又た玆に申す通り男子の方々をよく〳〵慰め勵ましたならバ此男子が世の中に爲しまする事業ハ半バ女の手に成ると申すものですかくありてこそ窈窕たる美人が君子の好逑となつたことでありませう(翁連ア八、○娘ども大いに喜びてパチ〳〵〳〵)

○いへのとも

答の部

八の答　先に御答ありし中にいゝいゝふくろと云ふハ貞丈が考のフトコロ轉じてフコロとなり再轉してフクロとなれり云々又編者の御說に福老ならんかなど答へられたれども私の考には先生方はあまり六かしく御考ありしと思ハれますなふくろとハ乳房の形が二の袋が丁度胸にさがりてあるが如き形より母の事をお袋と申したるにて別に意味ある語にても轉語にても無之候半と考申候(牛込築土、變生女史)

十。一。の答　花町娘の御心配一應御尤の樣に聞へ候へ共實ハ大なる御見込違に候」成る程男女とも三十近くありて婚姻してハ之を十四五或ハ十七八位にして婚姻し子を生むに較ぶれハ其數ハ少きの道理なれバ若し男女の目的を智愚賢不肖の如何に係らす只人形を具へたる者を多く生みさへすれバ其にて宜しとすれバ男女の發情を促して早く婚姻さするも宜しからんが男女室に居るの目的ハ決して右の如き最下點に在るに非らず賢女才子に嫁し君子佳人を娶りて相敬愛し相親睦し相扶助して英兒俊女を生み世の開明を維持し且つ進歩せしむるに在り今男女の二十年未滿是を四時に譬ふれバ僅に春節に移りしのみ草木共に發育生成の盛りにして未だ花を開き香を放つの時にあらず彼の植木師が種々の手段を以て先時の花を開かしめ香を放たしむるも是を時節到來の佳木芳草に較ぶれハ其色香と勢力ハ自ら下れり劣れるなり動もすれハ霜雪に害ハれて枯死せしむるに至る男女も之と同一の理にして十七八ハ僅に幼年期を過せしのみ精神と身體との發育生長ハ今猶盛りにして智慮未だ深からず經驗猶淺し精神已に此の如く身體亦强壯を欠く敎養を受べきの時節に非らずや此時に早く已に父と云ひ母と呼るゝに至らバ敎養を受くへきの身を以て敎養を施すの任に當る所謂盲者が盲者の手引をなすに異ならす相共に溺れざるものハ幸なり否僅に哺乳し得抱寐し得るにもせよ精神の敎育ハ更に施すことを得す且亦自己敎育を遂ぐること能ハす終身の進歩果して幾何ぞや是即相共に溺るゝ者なり加之遺傳法といふとあり委しく之を云ハんにハ一大冊子と成る可けれハ茲に大旨を括りて言ハんに父母の心身ハ其儘其子に遺傳するものにて言ひ替へれバ即兒子ハ第二の我なりされバ其子の愚と狂とハ即ち父母の狂愚にして父母の酒癖と竊盗心ハ即其子の酒癖竊盗心となる父母の身躰强壯活潑なれハ其子の身躰强壯活潑に父母智慮深けれハ其子智慮深く父母工藝に巧みなれバ其子亦工藝に巧みなるが如し男女三十身心共に强壯活潑なるの時なり故に此季に於て生るゝ子最も聰明なりといへり今十人の子を持ちたる人ありとせハ其長次子ハ少年の時に設けし子にして八九子以下ハ身心稍衰ふるの時四十年以後に擧げしものならん則ち其尤鋭敏活潑なるハ果して五六子に在る可き也俚言に總領の甚六と嘲けるも故なきに非らす而して其子が嘲りを受くるハ即ち父母の尤なり右に由りて見る時ハ早婚の害たる實に恐るべき者なり三十年前後にありて婚姻するも猶數人の子ハ持たるべし十人の子をして豚犬たらしむ

るゝ二三子をして孫仲謀たらしむるの樂しみにいづれぞや若し又子を持つの樂しみ少しとハ年長けて子を持ちてハ其子の成立を見ることを得ぬまに身已に枯骨となるが故に樂しみ薄しとの氣遣ひか四十にして子を擧ぐるも猶脫しとせざる也且又日本人の體の弱きハ多少ハ食物運動にも關すべけれど之を婚姻の弊害に歸せざるを得す即ち早婚の害と親類姻者同士の婚姻の弊是なり二者の弊害世の論者痛論餘力を遺さず麻姑を倩ふて癢き所をかくが如し亦余が訥辯を要せさる也」花町娘如何思召玉ふや（磐城棚倉、蘆野潤三郞）

編者曰く早婚の害ハ本誌第廿二號にも說述したり

十二。の答　十呂盤の始めハ豐太公の時其臣毛利出羽の守の門人に吉田七兵衛と云へる者（此人塵功記を作る）始めて作る之れより以前ハサンギのみ用ひしと云ふ（南埼玉、齋藤新助）

十五。の答　此問題ハ衛生上最も注意すへきとあれバ詳細御答申上度候得共餘り七面倒なる理屈にてハ徒に坐上の空論となり返て實際に行れざるの恐れあるを以て左に單簡なる二三の要點を揭て御參考に供せんとす

姙娠中の心得

食物ハ平素生活の度に由り慣れたる者ハ俄に變化するにハ及バざれども可成滋養分の多くして消化し易き者を選用すべし但し度に過ぐべからず殊に夜中の暴食を嚴戒す

適宜の運動ハ平素の如く緊要なれども疲勞する如く過度の運動或ハ腹部を強く壓迫する等の事業を成すハ害あり又是迄我邦の習慣として行ふ處の腹帶の如きも適度に用ゆるハ强ち惡しと云ふにハ非らざれども腹部形狀の如何をも顧みず姙娠すれバ必ず腹帶を成すへき者と心得究屈を忍び緊迫するか如きハ胎兒の爲めにも姙婦の爲めにも甚だ害ある者なれバ宜しく注意すへきとあり

出產日を知る法

姙娠時間ハ人々に由り長短を異にするを以て一定せずと雖も通例二百八十日より三百二十日の間にあり而し其出產日を知るにハ左の算法を用ふれバ率ね正鵠を庶幾す即其法ハ最後の月經何日に始りしを知り其日より倒算して三箇月に至り加ふるに七日を以てすれバ得る處の其日ハ即其兒の出產日とす例へバ最後の月經五月廿八日に始りしときハ三箇月を倒算すれバ二月二十六日となる爰に七日を加ふれバ三月四日となるへし故に其兒ハ三月四日を以て出產すへき者とす

表を以て示せバ左の如し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（最後の月經初日）	（分娩日）
一月一日	十月八日
七月一日	四月七日
一月十日	十月十七日

出産時の心得

妊娠と認識えたるときは預め熟練したる産婆を頼み置き出産の期節に際し少しにても身躰に異常を感ずるときは速に産婆を招くべきは勿論なれども此の際時々醫師の診察を請くるを緊要とす

爰に唯一の注意すべきは舊來の風習たる産前既に早く産場の裝飾を陰に設け家人猥りに廢用の衣服（洗濯せざるもの）を整理し産蓐襁と稱へて産時の用に當つ抑産襁の用たる不潔の汚汁を拭ひ且つ常に之れを陰部に纏ふて二週間は須臾も離すへからさるものあり然るを前述の如き汚垢き不潔物を以て陰部を擁之を清潔ゞするを怠るときは種々の病氣就中産時最も恐るへき褥熱に感ずるの憂あるを以て必ず新鮮なる白木綿或は撒酸綿の如き者を用ひ清潔にすへきとあり（青山、和崎義路）

○○十七の答　假初にも書を讀むとせば何ぞ小説を須ゆべき教育書性科の書家政子育の書など反つて可なり云々然し讀まで適はぬとあらば道德上益ありて身を脩め心を益するに足るものを取りて見給ふべし春色日本魂やうの者よかるべし（盤城棚倉、芳野潤三郎）

○○十七の答　妾か讀み見て宜しき者と考へ候西洋の小説は大抵左の類ならんと存じ候まゝ御答申候（横濱、若松しづ）

1. Felix Holt ; Scenes from Clerical Life ; Silas Marner ; Adam Bede. *By George Elliott.*
2. Ivanhoe ; Kennelwarth ; Monestary ; Abbot. *By Walter Scott.*
3. A Brave woman ; King Arther ; A Noble Life ; My mother and I. *By Miss Mulock.*
4. Little women ; Little men ; Shiloh. *By Miss Alcott.*
5. The Flowers of the Family ; Stepping Heavenward. *By Mrs. Preston.*
6. The wide, wide world ; Qweechy. *By Miss Wetherell.*
7. All sorts and conditions of men. *Besant & Rice.*
8. Blue beard's Keys ; Old Kensington ; Da capo. *By Miss Thackeray.*
9. Christmas Stories ; Black House ; Dombey and Son ; The Old Curiosity Shop. *Dickens.*
10. The Last Days of Pompey. *Bulwer.*
11. Strange Adventures of a Phaeton. *Black.*
12. Little classics (6 volumes) ; St. Nicholas.

問の部

○廿二　物品を人に呈する時表にはメなど認め候の事の起りは何なりや御敎を乞ふ（横濱フェリス女學校の一女子）

○廿三　妾は幼きより小學校に入り尋常小學科を卒業いたし其後ある學校に入り漢英の學を修め候ひしが六月にして退校致し此程にては某に就て英學を學び候何分にも校にあらざれば進歩の程もはかられず候間西洋人の設立したまへる學校に入學いたし度と度々父に願ひ候得共父事も妾に修業致させ候程の力無之候間許し不申されバとて此まゝに過し候も殘念に候間何卒御敎を乞ふ（麴町の貧女生徒）

○廿四　妾は自分の家を嗣ぐべき者なるが十一十二才の時同鄕の某家を嗣ぐべきにあらざる男敎師に小學校生徒たるとき敎課を受しが其先生は至極親切丁寧にて万事に達せざるなしと言ふべき程にはなきも年齢も六つ七つ違ひ身代は何れも伯仲し居る故夫となり婦とならバ末樂しく暮し得べけれど父母或は親戚知己に斯る事を云ふも實に間の惡きもの去りとて默し居らバとも存じ候何如して宜しき者にや至急御敎を祈る（横須賀、山田うら）

○廿五　婚姻の目的は子孫を得るのみに候や（本鄕、渡邊女）

○批評　（第十二、三、回）

(12)社會改良と耶蘇敎との關係中本一冊（八十二頁）廿五錢

此書は外山正一君の口述を林茂淳君が筆記ありたる者にて所云る社會改良とは主として男女間の關係を改良すると云ふ者の如し初よりは（我邦に男女同伴の風なきとは事實を知らざる者なり）と辨じ次に（士族社會と農工商社會とは男女交際の模樣に異同ある事を証し）又た（男尊女卑の風は專ら士族社會に行れる事）（財產を遺す仕方も士族と平民とは異同ありし事）（配遇を擇ぶの法も士族と平民とは異りし事）（女性崇敬の風はチウトニック人種のみの固有ならざる事）（男尊女卑の風の行はるゝ原因は社會が軍務的なるゆへにて產業的のものなればこの風なき事）（男尊女卑の風と遺產法との關係）（男尊女卑の風と孔敎との關係）（武家の世に男尊女卑の風の行れたる譯）（孔子流の道德は男尊女卑の風を强からしめし事）（支那流の道德主義は我邦將來の時勢に適せざる事）（此主義を排斥すべき理由）（之を排斥すると同時に西洋の耶蘇敎を入るゝ必要）等を述べて耶蘇敎は西洋の人情風俗と實に密着の關係あるものなり西洋の人情風俗を慕ひ之を我邦に輸入なさむことを願ひ乍ら西洋人の宗旨を拒絕せむとするは愚の至なるのみならず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

到底得べからざるとありと論じ且つ耶蘇教を入るゝ必要には世上に云ふ外に三の理由ありとて一に音樂之が爲に起ると二に同心協力の風之より起ると三に男女の交際之より盛んなると云へる三條を擧げ又宗教の事は輕忽に看過す可らず宗旨に淡泊なりと云へる人も昔しは封建宗旨と云へる者を信ぜし如く何人も必らず一の宗教を要するとなれバ水天宮や金刀比羅を信ずるよりハ道徳主義の具り居りて風俗矯正に裨益ある耶蘇教を採用し社會改良を助けしむるをよしとすと云ふにあり。著者平常の精密に似ず此書議論の脈絡甚だ不明なれども之を要するに大意孔教を棄てゝ耶蘇教を入れ以て社會の改良を爲すべしと云ふにある如し」我邦には男女同伴の風なきにあらずと云て諸國の名所圖會の圖及び緣日花見の有樣などを擧げ之を證せられたるは名論なるべし但し同伴は必しも交際にあらず著者の名論は亦た一方の極度に傾くものか又女流に優なる心はチウトニック人種のみの固有ならざる事何國と雖も其社會もし軍務的を去て産業的に移らバ男尊女卑の弊風全く一掃すべしと云はれたるは確論なり然れども君は日本の社會は今すでに産業的に遷りたれバ之を放任するも女卑の弊風自然に去るべしと雖も孔孟の教をして封建制度を助けしめたる如く耶蘇教をして今日の社會改良を助けしむるは決して失。策。ならざるならむと云ふ其意男尊女卑の弊風を全除するには必しも耶蘇教を要せずと云ふもの丶如し思に之れ尚至らざるの論なり苟くも希臘羅馬に於ける婦人の地位を研究し又た日耳曼人種が女流に對するの眞相を看破し古來産業盛んなる國土にして耶蘇教未ならざる時代の女風を見るものは決して著者と見を同ふするを得ざるべし戰爭止んで産業起らバ女を婢僕の如くする弊風は或は除かるべし然れども一夫一婦の制婚姻情交の淸潔等の如きは耶蘇教入らざるの前に於て決して見る可らざるの現象と云ふべし況んや産業たゞ隆んにして四民富饒なるのみ未だよく之を制治すべき宗教あらざらんには彼の富驕せる羅馬の男女が其年齡を算ふるに改婚せる夫妻の數を以てせるの風を再現するに至らんはたゞ吾人一家の私言にあらざる也故に今の社會改良特に著者が此書に多く論ずる所の男女間の改良につきては耶蘇教をして之を助けしむるにあらず眞に之なくんバ不可なるとなり之を行ハらすと失策ならざるにあらず實に最良の方法なるなり。然れどもむかし耶蘇教排斥を著し玉へる程の學士にして今如此き議論あるを見る吾人の深く感謝し且つ尤も慶賀するところ也

(13.)朗蘭夫人傳　中本一冊(百五十一頁)定價六十錢

此書は坪内雄藏君が泰西女丈夫傳の内として先づ佛國革命の際一政黨の統領となり數多の偉男子を制御したる彼のローランド夫人の傳記を譯述ありたるものなり原本は蓋し同夫人が獄中にものしたるかの自叙傳なるべし一婦人の傳記に百五十餘頁の紙を用ひたるは我國にては此書を最初とするとゆへ叙事の精密なるは言ふ及ばず筆力また例の如く快走して流るゝ如く一讀し去つて感慨少からずと雖も夫人の嫁入相談を記するに十一頁を費し其外冗事と思ふ所も多きが上に多くはジロンヂー黨員の人物と佛國革命の次第とに筆鋒を奪はれたれバ夫人の言行志想を味ふには物足らざるの思を讀者に起さする失あり然れども卷末に至り夫人が獄中に於ける節操及び斷頭場に上るの勇氣紙面にあらはるる以て譯者の文才を見るに足るなり。そも〳〵朗蘭は女丈夫なり蓋し尋常の女道を以て評すべき人物にあらず十一才にして熱信者たり十六才にして哲學者たり二十才にして懷疑者たり卅八才にして政黨の領袖となる必しも女に望むべき最上の美德あるものにあらざる也然れども夫は其死を聞て直ちに自殺し婢僕は悲んで狂となり刑にあふ以て夫人に尚ほ優温の女性多かりしとを記臆すべき也

● 論説

○日本の姉妹に告ぐ　(其二)

萬國婦人禁酒會書記　レビット

然らバ婦人は公衆に對して演説するも不可なきか妾は今ま聖經によつて一々之を論辨するとあたはずと雖も玆にたゞ妾が自信して疑はざるものを畧言すべし云く吾等もし聖經の文意を適當に解釋せバ此事に對して婦人を制するの教決してあらざるが如しとなれ何人と雖も容易く承知し得べき解釋にして今現にかくの如く解釋するもの甚だ多きとなり妾が本國に於てかの婦人が演壇に登て演説し若くハ講壇に登つて説教するを目し之を婦人に適當せざるとし或は之を女氣ならざるとするもの固より之あり然れども此類の人はかの劇場に遊び腕を露はして肩に至り甚しきハ頸と肩とを共に裸かにして吟謠する婦人を見るを樂しみ此處に於ては其行の女に不適當なるを責めず叉ろの樣の女らしからざるを尤めざるの人々なり蓋し女が公衆に對するの故を以て悦バれざるは其の男子を樂しましむるの間に在らざるなり反つてその神と家族とを愛するの愛により叉惡行惡風惡法の爲に人類の上に生じ來る害惡を憫むの熱心とにより、學び得たる智識と慷慨せる心念とを

有ちてよく衣服を裝し且つ正當の念を現ずるの時にある也故に妾等婦人が婦人たるの地位を過ごしたりと難ぜらるゝものハ實に妾等が神の榮光を顯さんが爲と妾等の家族を保護せんが爲と尙且つ人類の地位を高尙にせんが爲とに聲音を高うするが爲にある也

然れども過去の雲霧は漸やく散じて將に霽れんとし日本の年少婦人は多く其爲すべき事業あらんことを希望さるゝものゝ如し此等の姊妹希くは神を信じて之に委賴し大凡そその能ひ得べき所に於てハ何所をとハず斷然其事業を始め玉ふべし蓋し之を爲さんことを欲して數多の談話を試んよりは一婦人の直ちに之を實行すると反て大にまされる所の先例を示するものなるべし

編者几下、妾は貴社の爲に更に十分ある論文を認めんと欲すれども余暇甚だ少くして意の如くならずたゞ思ふまゝを取敢ず急草し呈送いたし候　レビット

右樣の斷り言を副へて右論文を送られたるは過る七月五日なりしが爾後紙面の都合により漸く本號ゑ之を揭了するととあれり但し本論の第一は第三十六號に第二は第三十七號にあり

●佳傳

○カムマ夫の讐を報ゆる事

むかし羅馬に打入たる北方の蠻民はかねてより女に優なるの交わりしかバ當時文化の尙ほ開けざりしには似ず夫婦間の愛情は反つて今日の敎とも見るべきものありろの比ろカムマと云へるは容色美にして一見人を迷はすの態あり去れバ愛情こまやかなる一人の夫あるに係はらず時のならひとて他に之をいどむ者もありけり特に權勢さかむある一人の貴族は是非ともカムマの手を得んとて得べき限りの手術を盡したる末ついにかの夫なる人を暗殺させたりカムマは歎き悲しみてダイアナの寺院へ投じ浮世をハかあみてたゞ餓土にけがされんことをつゝしみたり然るに彼の貴族より送れる使は踵を接して日々之に來り果ては自ら寺院に參りて面り迫ることもありけり當時の貴族ハ猶ほ君侯の如し腸を斷つ怨恨の所行も目前之に反向ふとすら能はざりしは眞にあハむれべき事なりかしカムマ漸くに心を定めて左程に妾を思し玉ふとあらバ兎も角も御心に從ひまつらんされど一度び尼とありすませし身の再び不淨に反らんは神の御怒りもをろろし今ま先づ其御許を祈るべけれバとて衣服を改めて神前に立ち出でたるが暫くして手に酒

一杯をさゝげて持ち來り先づ自ら其半バを飲みて次にかの貴族にわたしけれバ一生の望玆に足れりとしてグット呑ひ干したりあはれむべし此酒中に毒ありカムマ先づ其身を殺して貞を守り一擧また夫のあだを返せしとぞ

○松島佳人傳（第二回）

家里新太郎ハかの土佐の藩士筒井某と知己になりてより頼三樹三郎世古格太郎を初め坂本龍馬の輩もともに彼れ此れ往來して密かに時事を語らひたり然るに或日家里等が友人相會するとき慌たゞしく報じくるものあり只今三條の芳野方にて一人の老人數十人の捕手を相手にし戰ふよしきくにかの筒井氏あらずやと思ハると云ふ會する者等スハこそと驚きて早やくも身を挺しかけり出でんとする者あり皆あ一決して之に應援せんとしたるに新太郎獨り之を不可とし斯てその事の實ならざるとき反て大事を誤るの損ありともかく我一人に任せて虛實をさぐらさせ玉へと強て人々を沈め一人刀を提げてかけ出たり然るに三條に至る比は事全く畢りたる後にてかの老人は筒井某に違はざるのみか妻娘までも諸共に繫がれて行けりと聽き早や切齒するも甲斐なかりけりかくて其同志の探索いと嚴なりと風聞すればあまじ嫌疑を招いて小事に身を縛らるゝは策の愚なるものとて坂本ひとり京都に留まり頼と世古とは江戸に登り新太郎は再び拙堂先生の許に歸りたり然るに玆に三島四郎と云へる友人を得て意氣相投合し共に江戸に遊んで更に學業を研かんと定めたれば兩人同時に師の許をうけ早くも旅裝して出發せり發そるに臨んで拙堂先生がしきりに新太郎の過激を戒しめ暗に其志を仰へられたるぞ後に至りて其身の箴となれるなるべし宿驛ふみこえて桶峽に至れるとき

來弔二荒墳一欲レ斷レ腸。滿山草木晝凄涼。可レ憐一掬丈夫淚。
不レ灑二窮途一灑二戰場一。

の吟あり日あらずして江戸に着し早速昌平黌に入りたゞ修學に餘念あらざりけり

玆にまた彼の筒井某は妻子もろともに獄に繫がれ慷慨の念禁じがたし其身の藩士たるを告げざれば獄吏の呵責ますく烈しく筒井が强剛のゝしる所いよく高しされバ益々手强く責められて心身爲に疲れ果て遂に獄中の鬼となりしかば固より同盟の人を吟味するに術なく妻子ともぐに許されて久しく見ざりし天日を見るの身とはなれり然れど獄を出でゝ寄るべきの家なく漸やく元の芳野屋に歸りて亭主の義氣に僅かの心を慰すれど貯一錢もあらざれば母子の費を拂ふに術なし勝は

千々に心を苦しむれども身は女なり國元に申送るべき當もなければ土地になれざる京地に爲すべき仕事もあらず母が疲勞の上の病に一層の憂をやまさんとやう〳〵に心を定め思ふまゝを亭主にも相談しければ斯とならば此頃江戸の人幸助と云へるが手前に泊り上方風の藝妓を抱へんとて種をさがしてをいるさかいにと、氣の毒そうな親切の談合藝妓とあれば遊女にもあらず賤しき職業する其身をすらけがさずば宜しきとて母にも志を告げて遂に其許をうけたり勝は慷慨無二の父に教られて心中勤王の大事をも知りぬあれ共其身が男子ならんには果敢なくならせられし父の遺志をつぎてあつぱれ大丈夫の行をも爲さんとする其心は必しも生計の助けとならず身を賤しき藝妓に落として玉を錦なりの襤褸につゝみ漂人野客の機嫌を奉じて座敷の取なしを終日の心掛とするは何如にあはれむべき身の果なるらんされど時ならざれば思ふに甲斐なし幸助に伴はれて母をば駕に乘せ五十あまりのつぎ〳〵もたゞ地獄に近くやうに思はれつゝ日ならずして江戸の柳橋と云へるあたりに着きぬ」あゝ壯士が義元の荒墳に涙をそゝぐは佳人が大磯に歩みをとゞむると志必しも違はず旅天なまじひに人をなかせて無限の情それ〳〵に多かりしとなるべし

○安養の尼

横川惠心僧都の妹安養の尼の許に強盜入にけり物どもみな取て出にければ尼うへは紙ふすまと云ふ物を引着て居られたりけるに姉なる尼の許に小尼君とて有けるが走り參て見ければ小袖をひとつとり落したりけるを取て之をぬす人とり落し侍りけり奉るとて持て來りければ尼上のいはれけるは之もとりて後は我物とこそ思ひつらめぬしの心ゆるさゞらむ物をばいかゞきさん盜人はいまだ遠くはよもゆかじとり〳〵持ておはしまして取らせ玉へと有ければ門の方へ走り出てやゝと呼び返して之を落されにけりたしかに奉らんといひければ盜人ども立どまりて暫しあんじたるけしきにてあしく參りけりとて取たりける物共をもさながら返しをきて歸りにけりとなん古今著聞集に見ゆすべて誠を以て人に推せば盜賊と雖もかく心にはづるものなり

○夫にわかれたる人の歌

有馬玄馬頭廿七才にて卒したるとき其妻なるひと悼みの歌二首よみ出たるよし鳩巣小説と云ふに見ゆ

うたゝねの枕に月は殘れとも消にし人の影はとまらず

心から千筋となでし黒かみをいま一筋に切るぞ悲しき

●寄書

○世渡りの歌 (A Psalm of Life.)　横濱　若松しづ

(一)みやひなる、こと葉かさねて、うき世をバ、わびてかひなし、ゆめ見てぞ、ねむれる魂は、死にちかし、かくと見ゆるも、むなしくて、たのむまじきハ、ものにこそあれ。

(二)世わたりハ、迂濶ならぬぞ、そのはてハ、はかのすさびと、ならめやハ、ちりにいでてぞ、またちりに、かへりなんとハ、いける魂、させることバに、あらずとや見よ。

(三)空蟬の、世のたのしみも、かなしみも、われらの認むる、めあてぞや、人のひとたる、道ならめ、たゞいそしみて、あすはまた、けふにまされる、わざをこそせれ。

(四)いかにせん、なにハのあしの、ふしの間に、なぐべきことの、いとしげく、こゝろやたけに、はやれども、日を夜につぎて、おそひくる、死出のしらなみ、知ずやハあらぬ。

(五)くれたけの、世は戰場ぞ、ゆるかせに、ゆめなまもりぞ、ものゝふは、おわれてあへぐ、うしならず、すゝみハげみて、たゆみなく、てがらとげよや、四方のますら雄。

(六)あだにころ、あしたゝのむな、うもれ木の、うつるきのふハ、はなや咲く、けふにつぐべき、科ならず、いまてふいまぞ、いそしめよ、神しろしめす、あかきこゝろは。

(七)ますらおの、のこすかゝみに、われひとの、あげんいさほの、かげぞ見ゆ、しかしてつひに、のちの世の、人にやしるき、紀念碑、かきかゝざるは、われにこそあれ。

(八)すさましき、世の大渡を、こぎわけて、ゆきなやみたる、たびのひと、しるしのふみを、のぞみゝて、もしくはこゝろ、つよめなバ、さちといハんも、あまりあるらめ。

(九)いざさらバ、うしとかこつも、かたしとて、おとずさりすも、めゝしけれ、いさはにいさほ、かさねてぞ、いさみ忍びつ、こゝろして、とく〳〵すゝめ、やよ進めひと。

○巴姫　但馬豊岡　香雲女史

雲鬟不レ梳碎ニ玉笄一。可レ憐鐵馬蹈レ花斷。春風夜々友松里。夢向ニ粟津原上一迷。

○謹寄ニ女學雜誌社一　越後見附　窪みさを

智進文明我獨憂。眠醒初識ニ錦衣謀一。風鳴ニ草木一秋千里。月照ニ山河一影万州。海外漫波流レ垢淨。水中貧女拾レ球浮。悲歎老後无レ由レ學。烟樹參差越嶺頭。

○題しらず　横濱フェリス女學校　富田ゆき

かきりなきかつの恵に千代よろついや榮ふらん庭の姫松

○詩三首　木村久重子　遺草

左の數首は本誌第卅七號の新報に掲げたる久重子（東京大學へ入校を願はれ居たるうち遂に果敢なくなり玉へる乙女）が十三の比ろ詠ミたまへる者あまたある中より撰びたるなりとて其令姉より送られぬ

春夜讀史

書齋凭レ案望。披レ卷欲レ眠遲。矻々十年業。短檠獨自知。

春日山行

山間尋ニ勝景一。瀨々聽ニ清泉一。未レ返斜陽夕。貪着万樹春。

梅雨

蕭々梅雨幾時休。窓下小池靑草稠。遠樹濛々蛙鼓鬧。讀書窓暗奈ニ閑愁一。

○婦人の服裝　在青山　和崎義路

婦人服裝に就てハ昨年時事新報紙上に於て聊か愚見を述へ置きしか今茲ニ再ひ撮述して姉妹諸君の淸讀を煩さんとす近來世間に種々樣々の改良論有る中にも衣食住の改良ハ直接ニ吾人の身躰に關係有るより世人の注意も一層深きか如し茲に於て余は先つ衣服の事に就て一言せんとす抑も我國從來の服制ハ男女共に恰も風呂敷を纏ふが如き有樣にて外形甚た見苦しく且つ不便なりと雖も男子の服には古昔より袴或は股引等の制有りて稍醜躰を覆ひ得たりしも獨り女子ニ至りてハ是等の制なきより（少數の女官等には有れとも）日常二階の昇降を始めとし其他少しく疾走するか或ハ途上偶風に吹かるゝ等の時は紅白種々の褌旗を飜し尙甚しきは脛其他可耻の部位をも露すとあり如此場合に於ては我々同國人といへとも餘り感服せず否大に厭ふ所あり然るを况んや肌膚を露すを以て耻辱となし無禮と感する外國人にして此の有樣を見るときは未開と誹り無禮と呼ふも決して道理なきにあらず然らは外交頻繁の今日ニ當りては一日も速に此の醜風を防禦せさるへからず然れとも其法策如何に至りては固より種々の說ありて或論者は直に洋服を以てすへしと說けとも人には貧富の差あるを以て俄に洋服に改めんとするも少數の富有者の外は改良困難ならん斯くては貧富一般の風俗を改むるの効なく日本國中多數婦人は相替らず褌旗を飜し脛を露すの徒なりと覺悟せさるを得す誠に殘念千万の事と云ふへし依て余の愚考するに少しく姑息之策に亘るの恐あれとも一般婦人の爲ニ一つの簡易且つ經濟法を案し當時我國婦人（上流例外）の日常恰も禮服の如く心得内外共に使用する前掛に少しく改良を加へ是れを一種の裙なし袴となし日本服の上に着したらんにハ第一前述の醜躰を防禦し假令疾走するも風に吹かるゝも高きに昇降するも決して脛を露す等の心配なきのみならず道德上最も可惡可耻の强姦等の惡風を預防するの効あらんか第二經濟上よりすれは衣服の汚穢を防き復此迄の如く徒に幅廣き帶を腰圍に纏ふの究屈なく臀部に一種異樣の突起物を背負ふの不便もなし是即最簡易最輕便の婦人服改良法なり是れより以上の資力ある婦人方は金巾あり毛織あり又は絹布なり身分に應して洋服を製し速に褌旗隊の中間を脫し某仙人に迷惑を掛けさるやふ御注意最も大切なるへし

○虛言をうそと云ふ事　南崎玉　齋藤新助

支那西晉の代延陵と云處に女客有り名は玉須と云ふ此の人好て鳥を多く飼て人に賣買して世業となしけるが或時其友人問て曰く汝か家に諸鳥ある中に鳥の素きも有りやと戯れ尋けれは玉須答て曰成程烏の素きはしかも我家に數多あり來て見たまへと云右の人行て見れば素鳥一羽もなし皆黑かりければ烏素人うそ人と云てなぶりけるとあり又僞りて人をたぶらかすをだますと云も此玉須より起れり玉須の文字和訓にてだまますハだますなりうそも此の延陵の客より起れり文字にハ烏素玉須と書くあり

●寄書　前號發兌後前載の外。越后糸魚川の吉岡禰藏、神田の雨宮谷子、相摸沼目村の石井染吉、相摸戸室村の霜島瓶城壹岐石田の長田たつ、等の諸氏より女子授產策の答文。橫須賀山田うら女の問答。岩田文吉氏の答。等正に落手致候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●新報

○文書の道德　近時出版の著書及び新聞繪草紙等の圖書に人心を腐敗せしめて知らず〳〵之を不德の途に導くの傾向あるもの甚だ多し吾人かつとに之を慨き屢ば當路者の注意を乞ひたる者は實にその忍ぶ可らざるが故なり然るに官人もまた近來此事に懸念し如此き文書の制止に行屆かるゝ汎きを見て吾人は道の爲め慶賀の思にたへざるなりさきには府下に男女○○得失問答の反刻を禁じ西京に婚姻前後○○問答の出版を制し此頃又繪草紙屋繪入の新聞紙社等に令して一層の注意を促されたる由にきく如此き佳報を現今の砂漠中に耳にするを得るは人々の深く感謝すべきと也

○踏舞會　今度某貴顯の發議により高等女學校の生徒と帝國大學の學生等をして共に踏舞を習はしめ一の踏舞會を起し男女交際の手初めを成さしめんやう計畫中のよし敎育ある男女をして先づ交際の雛形を行はしむるは策の可なるものと雖も之に踏舞の遊を以てせんとは吾人の賛成するあたはざるものなり踏舞は米國の如き地にてすら道德上に高尚なる社會及び眞正の上等仲間には決して行はれざる所の遊びなり試みに米國の學生にとへ汝踏舞會に臨むかと彼れ怫然として怒るべし高等の貴孃亦然り現に今年三月ミシガン州にて取調べたる女學校生徒の統計表によるも高等の女生徒にして踏舞會等へ臨むもの甚だ少し男女の交際つとに行はれて道德尤も高しとの名ある米國に於て高等生徒及び上流社會の如此く踏舞を嘉みせざるものは何故ぞや志あるものは深く考ふべきとなり然るを況んや男子の目前には顏を赤ふして一語をも發すまじき日本の女流を驅り之をして直に男子と相抱き舞跳せしめんとす其得果して何處にありや吾人は今の舞踏會なるものに對するも尙ほつとに不同意の卑考を述べたり況んや高等生徒等の今ま之を試みんとするをや吾人は固よりかゝる學生生徒等の早く交際親睦するに至らんことを望む然れども其交遊の方法につきては之が先導者たるものゝ尤も用心する所あらんを希ふものなり思に相會て讀書演說するか時に詩歌奏樂の樂を爲すか春日秋天相伴ふてピクニックの遊を爲すか皆な適當の方法なるべしひとりかの踏舞に至つて吾人が深く賛成するとあたはざるものは豈にたゞ之を邦人の爲にのみ云はんや實に之を外國の紳士貴孃にはづる所あるが故なり

○男女合敎　女子を大學に入れて男子と共に敎授すべきや否やの議論は先年尤も盛んなる議論ありしとなれども此頃は其

論も畧ぼ定りたる所あるが如し現に米國の如きはつとにこの合教を行ふ所少しとせず左は合教の所と(共)女子をのみ教ゆる大學校(女)との校名並に其建設年月等を示すもの也

校名	制規	建設年月	千八百八十二年迄の卒業生
ボストン	共	一八七三	四七
コルテル	同	一八六八	八〇
カンサス	同	一八六六	三六
マツサチウセッツ	同	一八六五	五
ミシガン	同	一八四一	八七
チベリン	同	一八三三	一〇四
スミス	女	一八七五	九〇
シラキウス	共	一八七一	六五
バツサル	女	一八六五	五四〇
ウエルスレー	女	一八七五	一一〇
ウエスレアン	共	一八三一	一一五
ウイスコンシン	共	一八四九	一一一
計			一二九〇

○女紅塲の盛大　高知本町一丁目久保田の女紅塲は此頃日増に盛大に趣き自然繁忙をきわむる所より朝は五時より夜は十二時過ぎて一時二時頃までも仕事を執るとか又同所にて織出す木綿縞類の賣立相塲を聞くに反に付き凡そ三十錢より一圓三十錢位迄にて品柄は直段に引合すれば餘程に好しの評判我縣下に於ても製造品の盛大に趣くと云ふは實に賀すべき事ありと十月九日の高知新聞に見ゆ

○女子洋行　本所緑町四丁目東京府士族小出某の二女濱子は醫學中婦嬰科專門修業の爲め三ヶ年間米國へ留學せしと聞く

○西式女禮講習所　麹町區平河町三丁目の有泉敬之と謂る人は先年歐米各國を遍歴せし人にて其妻室は小笠原諸流を習ひし人なるが今度西式女禮講習所と云ふを設けられ上流社會の交際法其他貴女の手技等を教授したしとて同區役所へ設立の義を願ひ出でたり(本年十月十七日日々新聞)

○女新聞　大坂の青色新聞浪華社創業の記者坂崎斌氏は同社を退き歸京されしが近々同氏が主筆となり社員は一切十五歳以上二十歳以下の婦人のみにて組織し殘らず洋服を着さしめ婦人の能力はコンナものですと云ふ所を世人に示し呉むとて女新聞と題する新聞を一枚一ヶ月二十錢見當にて來る十一月十五日頃より發行さるゝ由にて社は繪入自由新聞社内へ設けらるゝとの事(本年十月十七日繪入朝野新聞)

○看病婦　芝の東京府病院に屬する看病婦學校の看病婦は一日五十錢にていづこへも雇はるゝ由此頃社友某方に出産ありたるにも之に委賴ありたるが産婆の事をも十分に取扱ふ上に餘程親切なる由にて喜び居れり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○レビット夫人　は去六日七時支那行の船に乗り込みて彼地へ趣かれたる趣繫社への音信に見ゆ

○婦人のあみ物細工　この頃英國愛蘭の一貴婦人オーガスタ、ジアン、クールド孃が亡き母の遺産ある同國メリック郡のアセアに設立したる婦人あみ物會社の履歷ありとて自らものしてアイリッシ、テキスチル、新聞に寄せたる記事を見るに孃が始めてこの事を思ひ立ちたるハ一昨千八百八十四年の事にして始め孃の考にては同地方の婦女子どもハ何れも貧窮にして身には破れたる衣服を纏ひながら終日何事もせずに暮らし居るを見て之れを憂き事に思ひ何がな婦人に相應はしき手仕事を設けてあれ等の貧女を救ハばやと思ひメリック地方にては如何なるものが一番捌け口よきやとかれこれ詮索の後ち先づ靴襪を編む業を始め貧家の婦女を集めて之を教授したるに女どもは些少ながらも幾らかの利得ある事なれバ喜んでその業に從事し忽ちにして數百人の女工を得たり始めのほどハ手際も甚だあしかりしがおひ／＼には上達して精良の品を製するに至りしかば評判次第に高くあり續々四方より注文を受くるにいたれり女工どもは田舍者のくせとして兎角仕事を粗末になす風あり孃は之れを教誡するに殆んど困難せしが七箇月のあひだ怠ることなく親切に之れを戒しめその仕事を監督せしが其功勞空あしからず七箇月の末には工女等も自ずと勉強するやうにあり手際も殊の外に發達し今は人の催促を要せず銘々熱心に仕事をあすやうになり隨て手際も非常に進みアセアの編物細工とてその名四方に鳴渡るに至れりかくて同地方の婦女子ハ之れがため仕事を得て夫々利得の付きたるのみあらずこの會社設立の結果として婦女の行狀も大に面目を改め以前の懶惰なる性を變じてたへず勉強するの習慣を得又其身支度等も奇麗淸潔を好む事とありその容貌さへ前より餘ほど立上りて見ゆるやうになれり昨年のことなりしが孃は一夕此等の女工を集め饗應を開きたるにその席に連らある妻孃を見るに何れも前日の見すぼらしき風俗に引かへてその衣服擧動に至る迄天晴良家の子女と見まがふ計りありしとなほ此等の婦女子は今日の處にては益す／＼仕事に熱心するの摸樣あればバ今後いかある度に發達するも計るべからず（本年十月二十日　時事新報）

○芳原の學習所　北豐島郡金杉村の積田晃齋といへるが發起とあり芳原仲の町へ一の學習所を設け娼妓藝妓の別あく餘暇に筆算裁縫を學ばしめなば正業に復るの後に益すべしとて同所へ學習所といへるを設立したき旨を警視廳へ出願したり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

女學雜誌社

第三回點取文

日本婦人授産業

台文題に對し寄答の方は必らず來る**十月卅一日迄**に必ず其答文を乞ふ右日限后到着の分は遺憾ながら社評の中に入らざるべし又寄送の答文ハ社評の上優劣を定め甲乙丙三等の點を得る者にハ各左の賞酬を呈す

甲點者	女學雜誌	三十冊	無代呈上
乙點者	同	二十冊	同
丙點者	同	十冊	同

演説著作 材料新誌

第八號出版

弊社發行の材料新誌は古今の著書中より演説著作の材料となるべき金言、名句、卓論、奇事、偉行、佳話、の類を集めたるものなり素と社員が文壇の時弊を見て餘業に編輯し發兌するものなれども世上の好評甚高く發賣部數も漸々に增加せり女學雜誌愛讀の諸氏は又同樣に御注文ありて編者の微志と苦辛とを御承知あらんことを希ふ

右每月一回宛發行。番數三十頁附錄四頁。一冊十錢全國無遞送料。見本を要せらるゝ方は郵券代用にてよろし

書籍取次

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したるものハ一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とを合せて定價の金員を送附あるべし大抵ハ其內にて郵送賃を辨じ申すと雖も大部の書は別に郵賃を請求可致候

賣捌所 取次の看客に告ぐ

女學雜誌大賣捌の書店中不都合の廉御座候節ハ直に御賣を中止仕候社則に付右樣の書店より本誌購讀の看客はそれが爲め御不便不尠と存じ候よつて向後右樣の次第にて書店より御配達不仕節ハ直に本社へ御一報有之度(從來何書店より購讀せしとの旨御記入ありて)候早速郵送致し厚意を空せざる樣致度希候也

女學雜誌社

廣告

●本月本日より向ふ三十日間 前後無比の大安賣

敝店儀先頃日本無二の書籍大安賣仕候處非常の御愛顧御高評を蒙り既に數萬部賣盡し日々繁昌仕難有奉謝候就てハ今般御禮の爲め大奮發にて勉強の上にも勉強を加へ損失を顧みざる必とあき安賣の極度紙價を以て差上候に付是れまで他店の安賣直段と御見較の上期限內に御注文被下度若し他店の直段安價に候ハヽ敝店ハ他店が幾何回廣告するも他店より五分引にて何書に限らず差上可申候●但し日延等一日も不仕候●(規則)着金の上ハ即日送本す遲くとも三日間ハ延はさず●送本の節ハ其由を通知し併せて金子受取書を添ふ●切手代用ハ二割增にて受納す●三圓以上の注文ハ運賃弊店より支弁の上定價壹圓の書籍進呈す●弊店大安賣書目調製有之候間郵券貳錢御送附あらば無代價にて進呈す

和漢洋 稗史 小說類大安賣捌所

大坂東區常盤町二丁目六番地

江戶屋本店

○當校寄留通學の兩生徒を募集すかつ近日音學の一科を加へんとす有志の貴孃來學あれ

麴町區九段坂下舊統計協會堂

明治女學校

基督教新聞

第百六十九號十月二十日發行

○基督教新聞(一)萬國大祈禱會及び日本全國大祈禱會の擧あるを聞く(二)日本社會道德上の不信用○敎報○雜錄(一)歐洲諸國宗敎改革の顚末(第六)(一)男子其妻を撰ぶの心得(三)不注意よりして我子を殺す○雜報及び社評○英文社會改良論○廣告○右一冊定價三錢每水曜日發行●東京京橋瀧山町警醒社

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

春の舍をぼろ譯

郎蘭夫人傳

美本一冊定價六十錢

岡山縣知事千坂高雄君撰序　同書記官高津暉君序書
山陽新報主筆鈴木券太郎著（正價郵税共代金六十錢）

日本婚姻法論略

完　洋裝美本帋數百九十八ページ

附　佛國婚姻法綱領釋義及批評

右ハ歐米各國ノ婚姻法主義ヲ參酌シテ我帝國ニ通用スベキ婚姻ノ資格方法順序離婚別居ノ習慣法律財產所有ノ權利義務等ヲ詳論シタル者ニシテ傍ラ佛國民法中婚姻ニ關スル部ヲ委ク譯述シ附錄ヲ以テ其綱領釋義及ビ批評ヲ爲シタル近代ノ傑著ナリ書中日本婚姻制度ノ沿革ノ如キ錦上數點ノ添花トシテ見ルベシ今ヤ男女同權ノ說世ニ行ハレ政府亦遠カラズ婚姻法ヲ制定セントス此書叢シ異日成典ノ東道ニシテ制法以前人民ノ熟知セザル可カラザル者歟且此書ハ政府ノ貴顯民間ノ學士等ヨリ非常ナル稱贊ノ聲ヲ以テ出版ヲ促ガサレタルモノナリ

大坂東區淡路町二丁目十三番地（日野商店内）
出版發賣　帝國印書會社

大賣捌書林大坂備後町梅原龜七●東京通三丁目丸善●備前岡山西尾●藝州廣島早速社

添註 土佐日記俚言解

小中村淸矩校閲　佐々木弘綱註解　○金四十錢　○全一冊

竹取物語俚言解

佐々木弘綱先生解　○金四十錢　○全一冊

文話

鈴木弘恭先生著述　三大人批評幷小序　上下　合本（完）定價金四十錢　郵税六錢

此書は古事記出雲風土記祝詞式續日本記竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草子土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の簽を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黑川眞賴小中村淸矩田中賴庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の摸範とす可き良書なり

東京本鄉區春木町三丁目十四番地　文苑堂

定價

一冊。五錢	郵税。一錢	（但府内無郵税）
十冊。四十八錢	郵税。十錢	（同前）
廿冊。九十錢	郵税。廿錢	（同前）
卅冊。一圓卅錢	郵税。卅錢	（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價	十五錢	府外ハ十八錢
二ヶ月分同	三十錢	府外ハ三十六錢
三ヶ月分同	四十五錢	府外ハ五十四錢
半年分同	八十八錢	府外ハ一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行	一回	前金拾錢（廿八字詰）
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町	巖々堂
東京芝西久保櫻川町	萬春堂
東京神田區雉子町	團々社支店
同 神田區佐柄木町	東海堂
同 日本橋區新葭町	眞明堂
同 日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同 京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同 本鄉區元富士町	盛春堂
同 本鄉區春木町二丁目	解明堂
京都四條通小橋へ入	澤集光堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地	伊勢安支店

發行所　本局　東京本鄉弓町壹丁目廿番地　女學雜誌社
持主兼編輯　巖本善治
印刷　森田豊

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongô, Tôkyô.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

山陽新報主筆鈴木券太郎著（正價郵税共代金六十錢）
日本婚姻法論略 完
洋裝美本帋數百九十八ページ
附佛國婚姻法綱領釋義及批評
右ハ歐米各國ノ婚姻法主義ヲ參酌シテ我帝國ニ通用スベキ婚姻ノ資格方法順序離婚別居ノ習慣法律財産所有ノ權利義務等ヲ詳論シタル者ニシテ傍ラ佛國民法中婚姻ニ關スル部ヲ委シク譯述シ附錄ヲ以テ其綱領釋義及ビ批評ヲ爲シタル近代ノ傑著ナリ書中日本婚姻制度ノ沿革ノ如キ錦上數點ノ添花トシテ見ルベシ今ヤ男女同權ノ說世ニ行ハレ政府亦遠カラズ婚姻法ヲ制定セントス此書蓋シ異日成典ノ東道ニシテ制法以前人民ノ熟知セザル可カラザル者歟且此書ハ政府ノ貴顯民間ノ學士等ヨリ非常ナル稱贊ノ聲ヲ以テ出版ヲ促ガサレタルモノナリ

出版發賣 帝國印書會社
大坂東區淡路町二丁目十三番地（日野商店內）

大賣捌書林大坂備後町梅原龜七●東京通三丁目丸善●備前岡山西尾●藝州廣島早速社

添註 **土佐日記俚言解** 小中村淸矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全二冊

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全二冊

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評幷小序 **上下** 合本（完）定價金四十錢 郵税六錢

此書は古事記出雲風土記祝詞式續日本記竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草子土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の發を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黑川眞賴小中村淸矩田中賴庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の摸範とす可き良書なり

東京本鄕區春木町三丁目十四番地 文苑堂

價 廣告

一ヶ月分女學雜誌代價十五錢	府外ハ十八錢
二ヶ月分同 三十錢	府外ハ三十六錢
三ヶ月分同 四十五錢	府外ハ五十四錢
半年分同 八十八錢	府外ハ一圓六錢
一年分同 一圓六十錢	府外ハ一圓九十六錢

一行 一回（廿八字詰） 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町 巖々堂
東京芝西久保櫻川町 萬春堂
東京神田區雉子町 團々社支店
同神田區佐柄木町 東海堂
同日本橋區新葭町 良明堂
同日本橋區馬喰町二丁目 自由堂
同京橋區木挽町壹丁目 萬字堂
同本郷區元富士町 盛春堂
同本郷區春木町二丁目 解明堂
京都四條通小橋へ入 澤集光堂
大坂備後町四丁目 岡島支店
伊勢國松坂白粉町 家里初枝
仙臺國分町五丁目五番地 伊勢安支店

發行所
本局 東京本鄉弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 si
ths, *yen* 1.96 per annum, in advance
Edited and published by Y. H. Iw
at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Y
Hongô, Tôkyô.

驛遞局認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY